

協働事業企画書

【家庭生ごみ堆肥づくり事業】

平成23年10月24日

松戸市長 本郷谷 健次 様

提案者住所 〒270-0001 松戸市幸田4-8

団体の名称 まつど生ごみ資源化の会

代表者氏名 代表 平田 熙



協議者 環境業務課長 林 泰輔



協働推進課長 佐藤 亮一



事業認定を受けた提案事業について、3者協議を行った結果、
別添のとおり事業企画書を作成しましたので、提出します。



事業計画書

1. 事業名称 家庭生ごみ堆肥づくり事業

2. 実施主体

- 団体名：まつど生ごみ資源化の会
- 事業担当課：環境業務課

3. 取り組もうとする課題

松戸市の家庭生ごみは、焼却ごみとして処理されています。焼却ごみの減量は、市内に最終処分場を確保できない松戸市の大きな課題になっています。この課題の解決に向けて、家庭生ごみを堆肥化し、資源として利用する取り組みを平成23年度の協働事業として実施しております。

平成24年度につきましても、この事業を継続し生ごみ堆肥化（資源化）の方法を確立します。

4. 事業内容及びスケジュール

平成23年度協働事業「家庭生ごみ堆肥づくり事業」において、家庭から出る生ごみ（10世帯）を6月半ばから収集し堆肥づくりを実施しています。初めての堆肥は9月に出来上がり、栽培試験も10月から開始しています。

平成24年度においては、季節毎（春夏秋冬）の気候条件の違いにより完成した堆肥の違いを検証します。また、昨年度完成した生ごみ堆肥の成分分析を行い、その堆肥にあった栽培方法を見つけるための栽培試験を行います。

	具体的な取り組み	実施体制、対象者、場所など
4月～6月	<ul style="list-style-type: none">・事業チームと協力世帯の継続・堆肥の成分分析・家庭生ごみの収集、堆肥づくり・野菜などの栽培試験（春作物）	<ul style="list-style-type: none">・7名の協働事業チーム・分析委託業者・協力世帯（10世帯）・堆肥づくり作業場
7月～9月	<ul style="list-style-type: none">・家庭生ごみの収集、堆肥づくり・野菜などの栽培試験（夏作物）	<ul style="list-style-type: none">・協力世帯（10世帯）・堆肥づくり作業場
10月～12月	<ul style="list-style-type: none">・家庭生ごみの収集、堆肥づくり・野菜などの栽培試験（秋作物）	<ul style="list-style-type: none">・協力世帯（10世帯）・堆肥づくり作業場
1月～3月	<ul style="list-style-type: none">・家庭生ごみの収集、堆肥づくり・野菜などの栽培試験（冬作物）	<ul style="list-style-type: none">・協力世帯（10世帯）・堆肥づくり作業場

	具体的な取り組み	実施体制、対象者、場所など
1月～3月	・協働事業の取りまとめ (堆肥づくりマニュアル、栽培マニュアルの原案作成)	・協働事業チーム ・事業担当課

5. 事業に期待する成果

平成23年度の生ごみ堆肥づくり協働事業においては、10世帯の家庭生ごみの収集・堆肥づくりを行い、収集の手順、作業場の使い勝手、効率的な作業などを検証しています。そして、「堆肥づくりマニュアル」の原案を作成します。

平成24年度においては、昨年度完成した堆肥の成分分析をして野菜などを栽培し、堆肥の効果を検証します。そして、栽培マニュアル作成の基礎づくりをします。

また、年間を通じての生ごみ収集・堆肥づくりを実施して、季節毎(春夏秋冬)の気候条件の違いにより、出てくる生ごみの種類及び完成した堆肥の違いを検証していきます。さらに検証した結果を基に、「堆肥づくりマニュアル」の作成を進めていきます。

6. 協働の意義

松戸市の焼却ごみ減量は、家庭生ごみの資源化によって実現できるのではという考えから、生ごみ堆肥づくりモデル事業が何度か実施されてきましたが、ごみ処理の方法として成立していません。

生ごみ収集・堆肥づくりには市民の協力が不可欠なので、市と市民との協働で実施することによって、市民の生ごみ分別・資源化についての参加意識が高まることが期待されます。

7. 事業実施の役割分担

■ 提案者の役割

10世帯の家庭生ごみを収集し、堆肥づくりを続けます。また、出来た堆肥の成分分析を実施し、その堆肥を使って野菜などの栽培試験を行います。

■ 担当課の役割

市が目指している「資源循環型社会」の構築には、市民活動による「資源化回収システム」の確立も一つの方策と考えていることから、市民活動のPRなどを行います。

8. 将来の展開

家庭生ごみ収集・堆肥づくりの協働事業により作成した「堆肥の作り方・栽培マニュアル」を町会、市民グループなどに啓発し、各地域に生ごみの堆肥づくりが広まることになれば、ごみの減量が進みます。また、出来上がった堆肥を使って、野菜などの栽培が行なわれるようになれば地域が活性化します。

事業の予算計画

【社会資源持ち寄り（収入）】

（単位：円）

提案者	（自己資金）	金 額	積算内訳
			10,000 円
	自己資金合計（a）	10,000 円	
	労力換算額計（b）	148,000 円	労力換算計算書のとおり
市	負担金申請額（c）	90,000 円	
資金合計額（d）（a+c）		100,000 円	事業費（g）と同額

【負担金申請額（c）チェック項目】

1. 対象となる経費（e）欄の90%以内
2. 1事業あたり50万円以内
3. 自己資金（a）欄に労力換算額（b）欄を加えた額以下であること。

【事業費の積算（支出）】

	項 目	金 額	積算内訳
負担金の交付対象経費	堆肥作業場の補修・維持費	10,000 円	ビニール、寒冷紗など
	作業用資材	15,000 円	保存容器、種子、苗など
	床材、発酵促進資材	30,000 円	モミガラ、米ぬか、赤土ほか
	堆肥成分分析委託費	45,000 円	水分、炭素、窒素、リン酸、カリ
	対象となる経費合計額（e）	100,000 円	
その他経費			
	その他経費合計額（f）	0 円	
事業費（g）（e+f）		100,000 円	収入合計額（d）と同額

※ 対象となる経費、対象とならない経費については、募集要項を参考にしてください。

労力換算計算書

(単位：円)

	項 目	換算額	積算内訳
労力換算額	活動計画		人数×時間×回数×500円
	堆肥化作業打ち合わせ会議	35,000円	7人×1h×10回×500円
	床材作製・栽培作業	48,000円	2人×4h×12回×500円
	生ごみ収集作業	24,000円	2人×1h×24回×500円
	堆肥化处理作業	24,000円	2人×1h×24回×500円
	堆肥切り返し作業	12,000円	2人×1h×12回×500円
	作業場整備作業	5,000円	5人×1h×2回×500円
	合計 (b)	148,000円	

協働事業企画書



【家庭用廃食油の回収による地域活性化事業】

平成 23 年 10 月 26 日

松戸市長 本郷谷 健次様

提案者 住所 松戸市稔台 7-7-13 (株)ダイエックス内

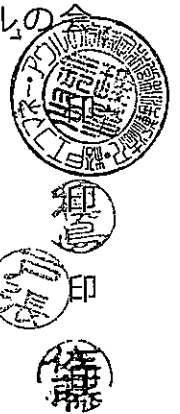
団体の名称 NPO 法人松戸エコマネー「アウル」の会

代表者氏名 理事長 戸田栄造

協議者 環境計画課長 槇島直樹

協議者 商工観光課長 戸張武彦

協働推進課長 佐藤亮一



事業認定を受けた提案事業について、3者協議を行った結果、
別添のとおり事業企画書を作成しましたので、提出します。

事業計画書

1. 事業名称 家庭用廃食油の回収による地域活性化事業

2. 実施主体

■ 団体名： NPO 法人松戸エコマネーアウルの会

■ 事業担当課： 環境計画課 商工観光課

3. 取り組もうとする課題

現状では家庭用廃食油は燃えるゴミとして排出され、市内の焼却施設で処理されている。また地域コミュニティの場であった商店街は少子高齢化や大型店の進出により活力がなくなっている。

また地域通貨「アウル」も会員相互の流通に限られ、地域への展開が不十分である。

そこで家庭用廃食油を回収し、BDFに変換して、この事業に協力した市民にお礼として地域通貨「アウル」を配布し、この運動に賛同した協賛店で、10アウルで10円の割引やサービスを受けられる循環システムを構築する。

それとともに美しいまちづくり、安心、安全なまちづくりに活動しているボランティアにも、ボランティア活動1回で10アウルを配布して、ボランティア活動への感謝の気持ちとやる気を引き起こし、協賛店で同じように割引やサービスが受けられるようにする。

23年度の協働事業として廃食油回収の活動を松戸市全域に展開するため活動中である。

24年度もこの活動の輪をさらに大きくして、松戸市全域に展開していきたい。

4. 事業内容及びスケジュール

21年7月よりアウル事務局を回収拠点として毎月2回の定期回収日を定めて、小金原、八ヶ崎地区をモデルに回収実験を開始した。22年2月から北松戸工業団地内の戸田建設のBDF生産プラントが稼働し、廃食油はここでBDFに加工されるようになった。

23年度松戸市協働事業に採択され、新しい廃食油の回収拠点とアウル券が使用できる協賛店の獲得に注力している。23年7月末の回収拠点は12店舗、協賛店は38店舗に達している。

また活動資料類の印刷、ノボリの作成、廃食油回収貯蔵用備品の購入をした。今後この周辺の一般市民へのPRを精力的に実施する予定である。しかしこのような活動を広く市民一般に浸透するにはある程度の時間が必要とし、息の長い取り組みが欠かせない。

広報まつどによる一般市民へのPR活動を繰り返すとともに、商工観光課のバックアップのもとに協賛店の拡充に注力する。

またアウルの会では回収拠点を中心とした町会、自治会へのしくみの説明を今後精力的に進めていく予定である。また松戸市全域にこの回収の輪を広げるには、まだまだ、回収拠点、協賛店の網の目は粗く、さらなる拡大が必要である。特に協賛店を、回収拠点を中心に1ヶ所当たり10店舗以上確保したい。

日程	具体的な取り組み	実施体制、対象者、場所など
4月～6月	回収拠点の拡充呼びかけ (5ヶ所以上) ノボリ、チラシ等活動資料の作成 「広報まつど」によるPR	北小金、馬橋、新松戸地区を重点に (環境計画課と協働で)
7月～9月	新規協賛店の参加呼びかけ 町会、自治会へのPR	回収拠点を中心にして、 商店街ぐるみの参加を目指す。 (商工観光課と協働で)
24年9月	回収拠点、協賛店、町会との報告 交流会	情報交換、意見要望のキャッチ
10月～12月	新規協賛店の参加呼びかけ 町会、自治会へのPR	回収拠点を中心にして、 商店街ぐるみの参加を目指す。 (商工観光課と協働で)
1月～3月	新規協賛店の参加呼びかけ 町会、自治会へのPR	回収拠点を中心にして、 商店街ぐるみの参加を目指す。 (商工観光課と協働で)
25年2月	回収拠点、協賛店、町会との報告 交流会 「広報まつど」によるPR	情報交換、意見要望のキャッチ (環境計画課と協働で)

5. 事業に期待する成果

22年度の健考館1ヶ所での回収実績は470L、23年9月末の回収実績は450Lである。これは小金原地区の健考館のみの実績であり、新たに加わった回収拠点は23年9月以降に廃食油回収の戦力になってくる。24年度末には、回収拠点を最低でも17ヶ所とし、その回収拠点を中心に1ヶ所につき10店舗以上の協賛店を確保する。また周辺の町会、自治会へのしくみのPRを徹底して、家庭用廃食油回収のしくみを定着させたい。(回収拠点1ヶ所当たりの廃食油回収量を500L/年を目標とする。)

6. 協働の意義

21年7月より、小金原地区を中心に、健考館(アウル事務局)にて、回収を進めてきたが最近になってこの活動が少しずつ浸透してリピーターも増えてきた。やはり息の長い取り組みを痛感している。このような活動を松戸市民に広く浸透させるには「アウル」の会だけでは限界がある。「もったいない運動」の重点事業として家庭の廃食油の回収リサイクル事業が認定され、地域通貨「アウル」がこの推進ツールとされている。

さらに松戸市の関係課との協働事業として推進出来れば、一般市民、ボランティア団体、商店、商店街へのPR活動が容易になり信頼が得られる。

また廃食油の回収が軌道に乗れば、松戸市が推進している減CO2活動にも寄与する事となる。

7. 事業実施の役割分担

■ 提案者の役割

家庭用廃食油回収拠点の拡大

- ① 食油回収拠点として協力してくれる企業・商店、商店街、町会等の発掘
- ② 廃食油回収拠点としての用具類の整備（回収タンク、ノボリ・チラシなど PR 用具）

アウル通貨が使える協賛商店の拡大

ボランティア団体の獲得

スクールガード、環境美化、まちづくり等のボランティア団体に参加を求める。

■ 担当課の役割

環境計画課

「広報まつど」による周期的な広報活動により、廃食油回収システムの PR を図り、松戸市全域にこの運動を拡大させて、多くの市民に参加を呼びかける援助する。

商工観光課

回収拠点の周辺の商店、商店街に対し、本事業の趣旨を理解していただき、アウル通貨の使用が出来る協賛店への参加促進に向けた PR をバックアップする。

8. 将来の展開

① 廃食油回収事業の松戸全市への展開

企業、商店、町会・自治会などの賛同を得て、回収拠点を松戸市全市に展開していく。
なお廃食油は戸田建設の BDF プラントで再生されて、構内の重機類の燃料として使用されている。

これにより市民の環境に対する意識を変えて、省資源、省エネルギー社会の構築を目指す。

② 地域商店街の活性化

協賛店の増加により、地域商店街の活性化と、市民との密接な交流が期待できる。

更に市民の協賛店への信頼感が高まり、地域商店街活性化にも資することができる。

③ 地域通貨「アウル」の拡大

「松戸市安全で快適なまちづくり条例」に関するボランティア団体の協力を得て「アウル」の循環の輪を広げていきたい。そのため松戸市全域の防犯パトロール、スクールガードや公園、河川、駅前等の清掃ボランティアにも「アウル」の配布を拡大していきたい。

家庭用廃食油回収を核にして、多くの市民の参加を得て、地域通貨「アウル」の循環を拡大することにより、市民と商店、ボランティアの連携が深まり、地域への愛着・貢献が図られ、明るい住みよい循環型の松戸市が出来るものとする。

事業の予算計画

【社会資源持ち寄り（収入）】

（単位：円）

	（自己資金）	金額	積算内訳
			80,000 円
提案者		65,000 円	アウルの会の事業費から
	自己資金合計（a）	145,000 円	
	労力換算額計（b）	600,000 円	労力換算計算書のとおり
市	負担金申請額（c）	500,000 円	／
資金合計額（d）（a+c）		645,000 円	事業費（g）と同額

【負担金申請額（c）チェック項目】

1. 対象となる経費（e）欄の90%以内
2. 1事業あたり50万円以内
3. 自己資金（a）欄に労力換算額（b）欄を加えた額以下であること。

【事業費の積算（支出）】

	項目	金額	積算内訳
負担金の交付対象経費	廃食油回収拠点用備品	75,000	回収拠点5ヶ所として、のぼり、ポール、スタンド等5セット)
	活動資料類の作成 (廃食油回収仕組の説明)	510,000 (140,000)	PR ちらし (7×20,000 枚)、 掲示板用 (60×1,000 枚×2 回)
	(廃食油回収仕組の説明)	(120,000)	町会回覧、掲示用 (100×500 枚)
	(回収拠点の紹介)	(50,000)	町会回覧、掲示用 (100×500 枚)
	(協賛店の紹介)	(50,000)	一般用 (10×15,000 枚)
	(回収拠点、協賛店の紹介)	(150,000)	
	調査交流費	20,000	会場費ほか
	対象となる経費合計額（e）	605,000 円	／
その他経費	スタッフ交通費	40,000 円	500 円×80 人分
	その他経費合計額（f）	40,000 円	
事業費（g）（e+f）		645,000 円	収入合計額（d）と同額

※ 対象となる経費、対象とならない経費については、募集要項を参考にしてください。

労力換算計算書

(単位：円)

	項 目	換算額	積算内訳
労 力 換 算 額	活動計画	/	人数×時間×回数×500円
	健考館での回収(2回/月)	144,000円	3名×4hr×24回×500
	全回収拠点巡回(1回/月)	240,000円	2名×20hr×12回×500
	活動資料原稿作成	16,000円	2名×8hr×2回×500
	商店、町会、ボランティア との折衝	200,000円	2名×20hr×10回×500
	合計 (b)	600,000円	/

協働事業企画書



【パパ手帳を使った男性への育児支援事業】

平成 23 年 10 月 28 日

松戸市長 本郷谷 健次 様

提案者 松戸市樋野口 813 クレド松戸 104

特定非営利活動法人子育て支援ほころ

代表者氏名 理事長 野村由香



協議者 女性センター所長 雁野文子



協働推進課長 佐藤亮一



事業認定を受けた提案事業について、3者協議を行った結果、
別添のとおり事業企画書を作成しましたので、提出します。

4. 事業内容及びスケジュール

(3の課題に取り組む上で、実施する事業及び具体的なスケジュールを記載してください。)

※ 実施する事業が、課題に対応していることを説明してください。

育児に興味があり、積極的にかかわりたい父親にむけ、手帳の配布だけでなく、講座を開催し、そこで地域の父親どうしのつながりをはかる。

育児になかなか関わる事ができずにいる父親にパパ手帳を配布し、きっかけをもってもらおう。

また、育児中の父親の様子や季節の情報など、手帳にのせきれなかった情報をパパ手帳通信として発行する。

(日程、場所、実施内容を具体的に記載してください。)

日程	具体的な取り組み	実施体制、対象者、場所など
春	イクメン講座（毎年、女性センターが開催）の中で1回ずつ講座を受け持ち、その時間内に手帳の普及のための時間も設ける 手作りおもちゃ講座 料理教室など 23 年度アンケートで希望の多かったものを取り入れる。 ・先輩パパを交えて、話をしてもらい、秋の講座にも参加してもらえるように働きかける。 ・他の父親の様子を直接知る。	場所・・・女性センター 対象・・・父親・母親 講師（おもちゃインストラクター 栄養士など） 先輩の父親
秋	イクメン講座 父親同士の話し合い、情報交換などの父親たちの仲間作りのキッカケを作る。手帳を実際に使ってみる。 春の受講者も含め、講座参加者に秋に行われるゆうまつどフェスタへ参加してもらえるようにする。(例：手作りおもちゃの展示、遊び方、作り方)	場所・・・女性センター 対象・・・父親 講師・・・先輩の父親 講座内容によって講師を決定する。
	手帳の増刷・配布	ボランティアスタッフ 22 年度の印刷手順で行う。1,000 部
	パパ手帳通信の作成・配布 内容には父親たちの意見を随時とり入れる。	ボランティアスタッフ 約 4 回発行
月 1 回	保健センターでおこなわれる、パパ・ママ学級で時間内か講座前後に約 5	市内 3 ヶ所の保健センター プレパパ・プレママ

	～10分間、配布・手帳の使い方実例を説明する。	
施設開催中	子育て支援施設内に置いてもらい、依頼があればパパ・ママ学級で行うような説明をさせてもらう。モニターを依頼し、実際に手帳を使用したママの感想を聞く	おやこDE広場（ゆうまつど） 市内3ヶ所の保健センター
	モニターを依頼し、実際に手帳を使用したママの感想を聞く	乳幼児を持つ父親
秋頃	アンケート調査を行い、手帳について意見、感想を集め、次年度の活動へつなげる。	子どもを持つ父親・母親 子育て支援施設利用者・スタッフ

5. 事業に期待する成果

(事業を実施する上で、どれだけのことを達成したいのか。その目標を数値などで記載してください。)

興味のある父親

- ・イクメン講座参加者のつながりを作り、24年度はゆうまつどフェスタに参加してもらう。
春・秋受講者のなかから、希望者をつのる。
- ・手帳の増刷と広報・配布（1,000部）

講座まで参加できない父親

- ・保健センター3箇所での広報・配布につとめ父親の育児情報があることを伝える。
- ・通信を年4回作成し手帳プラスワンの存在として情報をのせる。
市内各所におく。1回、500枚。アンケートの結果などは通信に反映させる。

手帳の増刷と広報・配布（1,000部）

アンケートやモニターで、父親たちの育児サポートへの希望をききとり、今後へつなげる。

6. 協働の意義

(協働の必要性、協働で事業に取り組むことの効果、提案者や市のメリットなどを記載してください。)

※事業の実施、目標とした成果を挙げる上で、協働で取り組む必要があることを説明してください。

提案者

- ・当団体が目指している父親の子育てへの参加について、女性センターと協働することで、活動の機会や場が増える。
また、単に手帳の配布にとどまらず、活用法の周知や意識向上を図ることもでき、父親の育児参加を推進することができる。
- ・手帳の信頼性や公共性を得ることができる。

担当課

・女性センターを拠点として「男女共同参画社会」を目指す様々な取り組みの中で、「男性の家庭生活への参画」を施策の一つと位置付けている。

さらに、子育て支援に携わっている提案者との協働をする事で、子育て世代の現状を捉え、ニーズや問題点を見出し、今後の対応などを共有しながら、同じ目標に向かって、それぞれの担う役割を果たすことで効率よく成果を導き出せる。その結果、松戸市男女共同参画プラン第3次実施計画の推進につながる。

7. 事業実施の役割分担

■ 提案者の役割

(提案者が行うことを具体的に記載してください。)

手帳の増刷

手帳を普及させるための広報活動

情報の収集

手帳に関するアンケートの実施

手帳配布と親の講座を実施し、親の仲間作りのきっかけ作りをおこなう。

■ 担当課の役割

(市が行うことを具体的に記載してください。)

手帳の信頼性と公共性

手帳を普及する場の提供や助言

男女共同参画の視点をもった情報の提供と助言

講座内容の助言

8. 将来の展開

(このモデル事業の成果をどう活かし、今後、事業展開していきたいのかを記載してください。)

※今年度提案する事業又は、モデル事業期間(3年を限度に申請が可能)に期待する成果を活かし、今後、どのように事業展開していきたいのかを説明してください。

来年度に関しては、女性センターが毎年開催している、イクメン講座の一つを利用させていただき、『パパ手帳』の広報・普及に努め、受講者を中心とした父親の輪を広げていきたい。

その後については、手帳をツールとして、意識啓発や情報発信をし、父親が育児に参画していけるようにする。そして、父親同士がネットワークを作り、父親たちが自ら活動していけるように、今後も女性センターと協働していきたい。

(第6条関係)

事業の予算概要

【社会資源持ち寄り（収入）】

(単位：円)

提案者	(自己資金)	金額	積算内訳
		36,000円	会員会費から3,000円×12人
		5,000円	賛助会員会費から1,000円×5人
	自己資金合計(a)	41,000円	
	労力換算額計(b)	186,000円	労力換算計算書のとおり
市	負担金申請額(c)	171,600円	
	資金合計額(d)(a+c)	212,600円	事業費(g)と同額

【負担金申請額(c)チェック項目】

1. 対象となる経費(e)欄の90%以内
2. 1事業あたり50万円以内
3. 自己資金(a)欄に労力換算額(b)欄を加えた額以下であること。

【事業費の積算(支出)】

	項目	金額	積算内訳
負担金の交付対象経費	講座講師料	10,000円	イクメン講座での講師料2回分
	手帳増刷代	144,000円	紙・印刷代(1,000部)
	パパ手帳通信・チラシ印刷代	10,000円	紙・製版代
	消耗品費	30,000円	事務用品(コピー・活動中に使用する事務用品等)
	対象となる経費合計額(e)	194,000円	
その他経費	スタッフ交通費	12,600円	1回300円42回分
	スタッフ飲食費用	2,000円	お茶代など
	スタッフ保険代	4,000円	

	その他経費合計額 (f)	18,600 円	
	事業費 (g) (e+f)	212,600 円	収入合計額 (d) と同額

※ 対象となる経費、対象とならない経費については、募集要項を参考にして下さい。

(単位：円)

労力換算計算書

(単位：円)

項 目		換算額	積算内訳
労力換算額	活動計画		人数×時間×回数×500円
	イクメン講座打ち合わせ	12,000円	2人×3時間×4回×500円
	ボランティアの会議	70,000円	7人×2時間×10回×500円
	スタッフ打ち合わせ会議	42,000円	3人×2時間×14回×500円
	広報活動	15,000円	2人×1時間×15回×500円
	反省会	7,000円	7人×2時間×1回×500円
	手帳印刷	40,000円	4人×4時間×5回×500円
	合計 (b)	186,000円	

協働事業企画書



【ゲット ユア ドリーム事業】

平成23年10月28日

(あて先)

松戸市長 本郷谷 健次 様

提案者 住所（所在地）松戸市新松戸4-256-1

ニューホームズ第一マンション1階

団体の名称 特定非営利活動法人

子どもの環境を守る会Jワールド

代表者氏名 理事長 三浦 輝江

協議者 子育て支援課長 荒川 浩二

協働推進課長 佐藤 亮一



事業認定を受けた提案事業について、3者協議を行った結果、
別添のとおり事業企画書を作成しましたので、提出します。

事業計画書

1. 事業名称 ゲット コア ドリーム 事業

2. 実施主体

- 団体名： 特定非営利活動法人子どもの環境を守る会Jワールド
- 事業担当課： 子育て支援課

3. 取り組もうとする課題

(どのような問題を解決することを課題としたのか。その背景なども含めて記載してください。)

【問題の背景（現状）】

- *核家族化や少子化が進行し、さらには地域の中での交流が減少している。
- *松戸市では、行政・学校・民間団体・地域の大人が個々に存在し、中高生に対する連携した支援が少ない。

【解決したい問題】

- *子どもが世代を超えて人々と出会い、様々な価値観に触れる機会が減少している。
- *自分の将来について不安を抱え、何かを始める前に諦めてしまう中高生が多い。
- *「何かをしたい」というような意欲を持った中高生が減少している。
- *23年度事業で松戸市内の中学校にチラシ配布依頼、高校に訪問し事業説明を行ったが、教師、生徒へ伝わらない事業周知の難しさがある。

【取り組みたいこと（課題）】

- *多くの中高生が様々な職業や経歴の大人と対等に話ができる交流の場を作る。
- *その中で、多様な価値観に触れ、自ら考え発言する機会を提供する。
- *行政・学校・民間団体・地域の大人とのつながりを生み出し、地域の連携を強化する。

4. 事業内容及びスケジュール

(3の課題に取り組む上で、実施する事業及び具体的なスケジュールを記載してください。)

① 中高生が様々な分野で活躍している大人たちとの対話・交流を持てる機会を提供する。

(1)松戸市内の中高生対象にチラシ等で公募によるワークショップを行う。

中学校・高校・青少年課からも協力を得て、参加者の募集・事業周知を行う。

23年度参加者に企画から参加してもらう。

(2)高校でワークショップを行う。

松戸市内高校1校の協力を得て、校内でワークショップを行う。

- ② ワークショップのチラシ・ポスターを作製し、参加者の募集・事業の周知を行う。
- ③ 一過性のイベントではなく、ワークショップ企画準備 → 活動報告作成参加 → 次年度の企画参加 というように、参加者が次年度以降も継続して関わることができる関係を作る。
- ④ 本事業の活動報告パンフレットを作成し、次年度に向けて事業周知を継続していく。その中で「ユースペース」を一緒に紹介し、市内に中高生の居場所の一つとしてアピールしていく。
*「ユースペース」とは、平成18年より新松戸地域で当法人独自に運営している広場。平日の放課後に中高生に向けて無料開放し、友達同士や他の世代と気軽に交流できる居場所となっている。中高生達を継続して見守っていく為、協働事業の参加者にユースペースの周知も行っていく。

(日程、場所、実施内容を具体的に記載してください。)

日程	具体的な取り組み	実施体制、対象者、場所など
4月	チラシポスター作成・配布	チラシ19,000部 ポスター50部 配布先：松戸市内の中学校・高校、団体等
5月～	ワークショップ講師依頼	
6月	ワークショップ①(公募による)	対象：松戸市内の中学・高校生 場所：市民会館等
10月～12月	ワークショップ②(高校で開催)	対象：松戸市内高校1校の生徒 場所：未定(松戸市内の高校)
1月～3月	活動報告作成・配布	3000枚 配布先：参加者、松戸市内の中学校・高校、団体等

5. 事業に期待する成果

(事業を実施する上で、どれだけのことを達成したいのか。その目標を数値などで記載してください。)

- ① 23年度事業のワークショップに参加した中高生が、様々な講師の人生観に感動し、「将来について真剣に考えたい」「あきらめない」「今出来ることをやってみる」などの感想を生き生きと話していた。さらにそのような中高生を増やしていきたい。
- ② 公募によるワークショップの参加者の目標を23年度と同じ50人のままとする。
- ③ 高校でワークショップを行うことによって、受動的な人も参加できるシステムを提供し、昨年度より確実に参加者を増やす。
- ④ 学校の先生方にワークショップを実際に見てもらうことで当事業及び当法人への理解を深めてもらい、協力校を増やしたい。
- ⑤ 地域の大人たちを講師として巻き込むことによって、中高生への理解関心を持つサポーターを増やしたい。(平成23年度は講師として8名の大人が参加し、地域のサポーターとなっている)
- ⑥ 松戸市、学校、民間団体、当法人4者の交流が深まり、お互いの役割について理解を深め、中高生への支援の協力体制が構築される。
- ⑦ 協働事業を通して中高生の実態をより具体的に把握をすることができ、松戸市の今後の次世代育成の施策に貢献出来る。

6. 協働の意義

(協働の必要性、協働で事業に取り組むことの効果、提案者や市のメリットなどを記載してください。)

- ① 民間団体独自では築くことのできない学校や他のNPO団体、市の協力をへて道が開かれ、PRしきれなかった中高生に対しても幅広く当団体の活動を知ってもらえることができる。
- ② ワークショップに協力してもらった「大人」の人選において、当法人と市の持っている人脈の双方を活用し、より、多様な人材の協力が可能になる。
- ③ 協働事業をしていく中で地域の大人たちが子どもの育成に関わり、中高生を支える環境が生まれ出される。
- ④ 松戸市次世代育成支援行動計画において、「思春期の子どもに対する支援をする」という項目で、子どもが地域社会で活躍する様々な大人と触れ合う事業の実施を規定している。本協働事業の実施により、当法人の専門性を活かした内容で計画に規定された事業を実現できる。

7. 事業実施の役割分担

■ 提案者の役割

(提案者が行うことを具体的に記載してください。)

- ① ワークショップ等の企画、準備
- ② 協力校・講師との連絡・調整
- ③ チラシ等の広報文章の作成
- ④ 参加者のフォローアップ

■ 担当課の役割

(市が行うことを具体的に記載してください。)

- ① 協働事業を進める上での当法人に対する指導
- ② 協力校・講師との連絡・調整
- ③ 学校その他を含めた広報活動
- ④ 会場の選択や提供
- ⑤ 資金の提供

8. 将来の展開

(このモデル事業の成果をどう活かし、今後、事業展開していきたいのかを記載してください。)

- ① ワークショップを3年継続プランとし、毎年その成果を分析しながら内容を改善、発展させていく。
- ② 参加した中高生を次年度以降の企画・運営に参加し、新しい企画や活動へ展開する。
- ③ ワークショップを基盤とし、中高生が日常の生活の中で地域の大人や様々な職業の人たちとの交流を持つことが出来るようになる。
- ④ 参加した中高生を当法人運営する中高生の居場所「ユースペース」の利用につなげ、事業終了後も継続した支援を行っていく。

事業の予算計画

【社会資源持ち寄り（収入）】

（単位：円）

	（自己資金）	金額	積算内訳
			53,500 円
提案者	自己資金合計（a）	53,500 円	
	労力換算額計（b）	256,500 円	労力換算計算書のとおり
	市 負担金申請額（c）	273,000 円	
資金合計額（d）（a+c）		326,500 円	事業費（g）と同額

【負担金申請額（c）チェック項目】

1. 対象となる経費（e）欄の90%以内
2. 1事業あたり50万円以内
3. 自己資金（a）欄に労力換算額（b）欄を加えた額以下であること。

【事業費の積算（支出）】

	項目	金額	積算内訳
負担金の交付対象経費	広告宣伝費	91,300 円	チラシ@4.2 円×19,000 部 ポスター@230 円×50 部
	公募ワークショップ費	70,500 円	講師謝礼 4,000 円×10 人 消耗品 20,000 円 飲み物お菓子代@150×50 人分 行事保険 3,000 円
	高校ワークショップ費	77,000 円	講師謝礼 4,000×10 人 消耗品 20,000 円 飲み物お菓子代@150×80 人分 行事保険 5,000 円
	活動報告作成	54,800 円	@54.8×1,000 枚
	通信費	10,400 円	切手代@80×130 枚
	対象となる経費合計額（e）	304,000 円	
	その他経費	スタッフ交通費	9,000 円
スタッフ飲食費		10,000 円	@500 円×10 人×2 回
ワークショップ ゲーム・景品代		3,500 円	公募 1,500 円 高校 2,000 円

	その他経費合計額 (f)	22,500 円	
	事業費 (g) (e+f)	326,500 円	収入合計額 (d) と同額

※ 対象となる経費、対象とならない経費については、募集要項を参考にして下さい。

労力換算計算書

(単位：円)

	項 目	換算額	積算内訳
労 力 換 算 額	活動計画		人数×時間×回数×500円
	チラシポスター原稿作成	4,000円	1人×2時間×4回×500円
	市との打ち合わせ	5,000円	2人×1時間×5回×500円
	講師依頼調整	24,000円	1人×2時間×24回×500円
	ワークショップ企画準備	32,000円	4人×2時間×8回×500円
	ワークショップ 前日準備・当日運営	160,000円	10人×8時間×4回×500円
	高校と打ち合わせ	6,000円	2人×2時間×3回×500円
	活動報告作成	12,000円	2人×4時間×3回×500円
	通信作成	1,500円	1人×3時間×1回×500円
	学校PR訪問	12,000円	2人×6時間×2回×500円
	合計 (b)	256,500円	

協働事業企画書



【 世代間交流の場・トキ塾 事業 】

平成23年 10月 28日

(あて先)

松戸市長 本郷谷 健次 様

提案者 所在地： 松戸市常盤平2-2-5

団体の名称 常盤平地域活性隊
代表者氏名 隊長 榎本 孝芳



協議者

常盤平支所 支所長 石上 三喜男



協働推進課 課長 佐藤 亮一



事業認定を受けた提案事業について、3者協議を行った結果、
別添のとおり事業企画書を作成しましたので、提出します。

事業計画書

1. 事業名称 世代間交流の場・トキ塾

2. 実施主体

■ 団体名： 常盤平地域活性隊

■ 事業担当課： 常盤平支所

3. 取り組もうとする課題

トキ塾も3年目を迎え、地域住民交流の場として住民参加型学習塾「トキ塾」を開塾し、高齢化の進んでいる常盤平地区活性化の一助とする。またより一層の、行政及び地元町内会・自治会・商店会・地域団体等をつなぐ役目や、さらに地域交流を深めることで、地域の活性化をより一層推進する。

自立にむけた取り組み・参加者を増やす広報の工夫・常盤平支所との月一の報告や広報のお願いなどをひとつずつ丁寧に進め、課題の達成に向けて更なる次元での活動に取り組む。

4. 事業内容及びスケジュール

・事業内容

世代間の交流も含め、出来るだけ多くの住民が、いつでも好きな時に気軽に参加できるテーマを選び、講師と参加者が双方向的なコミュニケーションを図れる機会と場所を提供する。

今回は3年目を迎えるので、自立して開催していく足がかりの年と位置づけ、協働事業のトキ塾開催を10回として、講師料や参加費の受益者負担を見直して自立していけるような、自主開催の講座を4回開催し、自立への足がかりの年としたい。

	具体的な取り組み	実施体制、対象者、場所など
4月～6月	人気があって実績のあった講座と新たな試みを半々程度で進めていきます	常盤平地域活性隊隊員を中心として地域住民を対象に商店街空き店舗を利用して行う。
7月～9月	開催施設に空調がないため回数を減らします 好評な夏休み企画で子供たち向けの宿題支援講座開催	同上
10月～12月	自立にむけたいくつかの試みを入れて住民がより参加しやすいものを実施します。 好評なクリスマス企画でキャンドル作りなどの講座開催	同上
1月～3月	開催施設に空調がないため回数を減らします 自立にむけた自主企画開催	同上

5. 事業に期待する成果

トキ塾をきっかけに新たなコミュニティや活動、お付き合いが始まるような活動を目指します
引き続き地域住民へのアンケート等をお願いし、希望するテーマや、これまでのテーマや講座に参加しての満足度等も調査して事業成果を確認しながら推進する。

6. 協働の意義

三年目を迎え、協働事業者である松戸市(担当課：常盤平支所)の協力を得て、地域町内会との協議や商店会との広報活動を深めることが出来る等、今後とも、市との協働事業による信用力、広報力及び活動を継続的に実施していくための費用の支援が必要です。又、事業を通じて得られる住民の要望や課題等についても行政と情報の共有がはかれるものと期待しててます。

7. 事業実施の役割分担

■ 提案者の役割

- テーマの企画・実施・結果整理、講師の選定
- 各種広報活動と参加者募集
- 事業やアンケート調査等を通じて得た、住民の要望や思考の把握とフィードバック

■ 担当課の役割

- 広報活動への協力
- 講座会場確保への協力
- 経費支援
- 町内会・自治会・商店会などとの交流活動の支援

8. 将来の展開

トキ塾の活動や「トキサイ」との相乗効果により、いくつかの実績を積み上げ、魅力ある常盤平の実現ができるようにすすめていきます。

今後は、さらに参加者や住民の要望も反映した、テーマの選定や講座回数の増加により、より多くの集客に努力して、さらなる内容の充実を図っていきたい。将来的には、独自で効率的な事業運営と自己資金の確保により、地域住民のコミュニケーションの場としての利用価値を高めていきたい。

事業の予算概要

【社会資源持ち寄り（収入）】

（単位：円）

	（自己資金） 参加受講料 寄付金	金額	積算内訳
			30,000 円 5,000 円
提案者	自己資金合計（a）	35,000 円	
	労力換算額計（b）	210,000 円	労力換算計算書のとおり
市	負担金申請額（c）	145,000 円	
資金合計額（d）（a+c）		180,000 円	事業費（g）と同額

【負担金申請額（c）チェック項目】

1. 対象となる経費（e）欄の90%以内
2. 1事業あたり50万円以内
3. 自己資金（a）欄に労力換算額（b）欄を加えた額以下であること。

【事業費の積算（支出）】

	項目	金額	積算内訳
負担金の交付対象経費	講座講師謝礼	100,000 円	10,000 円×10回
	講座資料作成	3,000 円	30部×2頁×10回×5円
	チラシ作製	50,000 円	1,000枚×5円×10回
	ポスター作製（大）	9,600 円	1枚×960円×10回
	ポスター作製（中）	2,400 円	1枚×240円×10回
	対象となる経費合計額（e）	165,000 円	
その他経費	スタッフ通信交通費	10,000 円	5人×2,000円
	会議費用	5,000 円	5人×100円×10回
	その他経費合計額（f）	15,000 円	
事業費（g）（e+f）		180,000 円	収入合計額（d）と同額

※ 対象となる経費、対象とならない経費については、募集要項を参考にして下さい。

労力換算計算書

(単位：円)

	項 目	換算額	積算内訳
労 力 換 算 額	活動計画	/	人数×時間×回数×500円
	運営会議（月1回）	60,000円	5人×2h×12回×500円
	チラシ作製	40,000円	2人×4h×10回×500円
	ポスター作製	60,000円	2人×6h×10回×500円
	講師との打ち合わせ	20,000円	2人×2h×10回×500円
	講座の運営	30,000円	2人×3h×10回×500円
	合計（b）	210,000円	

協働事業企画書



【昔のあそびとわらべうたⅡ事業】

平成 23年10月28日

(あて先)

松戸市長 本郷谷 健次 様

提案者 住所(所在地) 松戸市六実2-52-10

団体の名称 昔のあそびと遊ぼう会

代表者氏名 会長 白石 彌登美 印



協議者 六実支所長 鈴木 孝行



協働推進課長 佐藤 亮一



事業認定を受けた提案事業について、3者協議を行った結果、
別添のとおり事業企画書を作成しましたので、提出します。

事業計画書

1. 事業名称 「昔のあそびとわらべうたⅡ事業」

2. 実施主体

- 団体名： 「昔のあそびと遊ぼう会」
- 事業担当課： 「松戸市六実支所」

3. 取り組もうとする課題

核家庭化の影響からか親から子、子から孫へ遊びを教えられる人が少なくなってきました。また老人・青年・子供の世代にまたがりコミュニケーション手段がなく一緒に楽しめることが 無くなってきました。

伝承文化である、「昔の遊び・わらべうた・わらべうたあそび」をコミュニケーションツールとして、広めることにより、親と子、孫との共通の話題作りを提供できるようになり、地域の世代間交流ができるようになります。

さらに地域住民全体に輪を広げていくことにより地域の活性化に寄与できるものと確信します。

4. 事業内容及びスケジュール

H23 年度は、個別に事業を行ったが子供達も時間が取れなく、集客が難しかったので、H24 年度は、地域イベントとコラボして地域イベント全体を盛り上げる活動を多く行う。又昔遊びの講習会に来れない障害者・高齢者の人達とのコミュニケーションを図るため、出張し開催する。

講習会では、相互理解を深めるため、名札を付けてもらい、対戦ゲーム形式もとり入れる。

日程	具体的な取り組み	実施体制、対象者、場所など
H24. 4	① 六実桜まつりに参加	指導員、地域祭り参加者、さくら通り
H24. 5	② けん玉・カプラ講習会	指導員、講師、地域住民、障害者施設
H24. 7	③ こま・まりつき・お手玉講習会	指導員、講師、地域住民、市民センター
H24. 8	④ けん玉・カプラ・めんこ講習会	指導員、講師、地域住民、市民センター
H24. 8	⑤ 盆踊り・昔あそび大会	指導員、地域住民、六実スポーツ広場
H24. 10	⑥ 「六実っ子まつり」参加	指導員、講師、地域住民、市民センター
H24. 12	⑦ こま・羽根つき・めんこ講習会	指導員、講師、地域住民、市民センター
H25. 1	⑧ 昔のあそび・正月遊び大会	指導員、地域住民、神社境内
H25. 3	⑨ 「キャラバン見本市」参加	指導員、地域住民、市民センター
H25. 3	⑩ 年度の反省次年度計画見直し	指導員代表、支所、協働推進課
H24. 4~毎月	⑪ 定例会	誰でも参加自由、会員、市民センター

5. 事業に期待する成果

- ・講習会参加した人員 各講習会の参加 50 名以上
- ・六実桜まつり、六実っ子祭りでの参加 各々100名以上
- ・他団体とより緊密に連携化することにより、地域イベントがより活性化できる。

6. 協働の意義

- ・当会だけでは、情報入手に限界があり、支所の協力が必要である。
- ・支所との協働事業として行うことで、事業に対する信頼度が格段に向上する。
- ・他地区の情報が得やすくなる。
- ・会員には、民生委員、防犯指導員、高齢者支援相談員等の活動をしている人がおり、当会との協働事業をすることにより今迄知り得無かった草の根の情報（例えば、町内の危険場所や災害時の確認必要な人情報等）が入手出来行政に役立つことになる。
- ・支所として支援している、地域イベント（六実っ子まつり、六実桜まつり、盆踊り等）の更なる活性化が図れる。

7. 事業実施の役割分担

■ 提案者の役割

- ・「昔あそび、わらべうた、わらべうたあそび」の技術の提供。
- ・同上の指導要員の提供。
- ・同上のイベント実施する際の企画・運営。

■ 担当課の役割

- ・支所で管理している公益の場所の提供・調整。
- ・広報等の掲載。
- ・支所管内のイベント情報の提供。

8. 将来の展開

住民同士が知合い、子供達も顔見知り、互いに挨拶を交わせる街になり、子供たちから町で、「おはようございます」、「お手玉の先生だ」、「けんだま名人だ」、「わらべうたの先生だ」、「コマ回し名人だ」とあいさつする町にしていきたい、また大人同士が顔見知りになり、歳をとっても自宅内に引籠らずにみんなが集ってあそべるものを作りあげたいと思っています。

そのためには、指導員の増員や世代交代、PRも欠かせないと思っておりますが、先ず六実支所管内で遊びの活動を重ね、成果を確認しながら子供達を育て、指導員の育成を図り「わらべうた・わらべうたあそび」等古きよきものの伝承を図って行くことにより、いきいき安心して生活できる地域社会をつくりあげる。又「昔あそび」で地域のコミュニケーションを図っている町と呼ばれるようにしたい。==>「昔あそびの町」と呼ばれたい。

事業の予算計画

【社会資源持ち寄り（収入）】

（単位：円）

	（自己資金）	金 額	積算内訳
提案者	会費	72,000 円	20 人×3600 円/年
	寄付金	20,000 円	
	参加費	30,000 円	コマ代(100 人×200 円 メンコ代(100 人×100 円)
	自己資金合計 (a)	122,000 円	✓
	労力換算額計 (b)	525,000 円	労力換算計算書のとおり
市	負担金申請額 (c)	213,000 円	✓
	資金合計額 (d) (a+c)	335,000 円	事業費 (g) と同額

【事業費の積算（支出）】

	項 目	金 額	積算内訳
負担金の交付対象経費	報償費（講師代）	75,000 円	5 回×15,000 円（注 1）
	印刷費製本代	100,000 円	2,000 部（注 2）×50 円
	材料費	120,000 円	（注 3）
	保険料（行事保険）	20,000 円	400 人（注 4）×50 円
	対象となる経費合計額 (e)	315,000 円	✓
その他経費	指導員飲食費	10,000 円	
	指導員交通費	10,000 円	
	その他経費合計額 (f)	20,000 円	✓
	事業費 (g) (e+f)	335,000 円	✓ 収入合計額 (d) と同額

（注 1）報償費 5 回内訳 けん玉講師代（3 回(②,④,⑥)×15,000=45,000）、こま講師代（2 回(③,⑦)×15,000=30,000 円

（注 2）印刷部数 2,000 部内訳 ①・⑤各 200 部、②・③各 50 部、④・⑦・⑧各 500 部

（注 3）材料費内訳 竹返し(30 個×500 円=15,000 円)、お手玉(200 個×50 円=10,000 円)、かるた(2×5,000 円=10,000 円)、めんこ(200 枚×100 円=20,000 円)輪投げ(5 個×2,000 円=10,000 円)、羽根(10 個×500 円=5,000 円)、あやとり紐(50 本×200 円=10,000 円)、カプラ(2 個×10,000 円=20,000 円)、こま(100 個×200 円=20,000 円)

{遊びの材料については、事業終了後は、団体が継続し、事業を行い材料は団体が管理し、地域イベントや公共のイベント等で使用していく。会が解散時には、市と調整し返却する。}

（注 4）保険料内訳 400 人（②、③、④、⑤各 50 人=小計 200 人、⑦及び⑧各 100 人=小計 200 人）
*50 円/人=20,000 円

労力換算計算書

(単位：円)

項目		換算額	積算内訳
労力換算額	活動計画		人数×時間×回数×500円
	① 地域イベント桜まつり指導員工数	105,000円	15人×7H×2回×500円
	② けん玉・カプラ講習会指導員工数	22,500円	15人×3H×500円
	③ コマ・まりつき・お手玉講習会指導員工数	22,500円	15人×3H×500円
	④ けん玉・カプラ・めんこ講習会指導員工数	22,500円	15人×3H×500円
	⑤ 盆踊り・昔あそび大会	37,500円	15人×5H×500円
	⑥ 地域イベント六実ッ子まつり指導員工数	52,500円	15人×7H×500円
	⑦ こま・はねつき・めんこ講習会指導員工数	22,500円	15人×3H×500円
	⑧ 昔のあそび・わらべうた大会指導員工数	37,500円	15人×5H×500円
	⑨ キャバ〇見本市指導員工数	52,500円	15人×7H×500円
	⑩ イベント企画・チラシ現行作成工数①～⑨+追加催事チラシポスター作成工数	60,000円	3人×4H×10回×500円
	⑪ 定例会指導員工数	90,000円	10人×3H×6回×500円
合計 (b)	525,000円	✓	

協働事業企画書



【楽しい健康体操Ⅲ事業】

平成23年10月28日


(あて先)


松戸市長 本郷谷 健次 様


提案者住所 松戸市栗山542-2

団体の名称 特定非営利活動法人

人材パワーアップセンター

代表者氏名 理事長 岩橋秀高 

協議者 保健福祉課長 小谷和美 

協働推進課長 佐藤亮一 

事業認定を受けた提案事業について、3者協議を行った結果、
別添のとおり事業企画書を作成しましたので、提出します。

事業計画書

1. 事業名称 楽しい健康体操Ⅲ 推進活動

2. 実施主体

■ 団体名： 特定非営利活動法人 人材パワーアップセンター

■ 事業担当課： 保健福祉課

3. 取り組もうとする課題

テーマは「楽しい健康体操いつでも・どこでも・だれでも」普及にチャレンジinまつど です。

高齢者が身近な場で運動ができ、健康づくりのきっかけになるよう、高齢者運動教室を前年度に引き続き開催します。平成 22 年度は高齢者運動教室を 5 会場開設し約 60 名、平成 23 年度は更に 5 会場を開設し 30 名延 90 名が現在参加しています。次年度は協働事業の最終年度となりますので、引き続き運動指導員を養成し、身近な地域での会場数を増やします。

また、会場確保については、平成 23 年度はかなり困難でしたが次年度も継続して担当課とともに、町会の理解を得ながら会場確保に努めます。さらに、高齢者運動教室が安全に継続的に実施できるように運営システムの開発に取り組み実施します。

4. 事業内容及びスケジュール

以下 3 点の取り組みを実施します。

- ① 高齢者運動指導員（インストラクター）及び「場」のマネージャー（教室の運営）養成事業
- ② 楽しい健康体操「わくわくストレッチクラブ」の会場の確保、運動教室開設普及事業
- ③ 「場」の運営システムの開発（プロジェクト推進メンバー・スーパーバイザーによる点検改善検討・提案等実施機関の充実）

※「具体的な取り組み」に記載されている番号は上記の事業番号①～③を示しています。

日程	具体的な取り組み	実施体制、対象者、場所など
4 月	②会場の探索・開設普及事業	実施方法：調査担当者が 5 会場の検討・調査・絞り込み。担当課と町会への交渉を実施 対 象：高齢者を対象とした運動教室 場 所：地域の自治会館・町会会館等
4 月 ～ 6 月	①高齢者運動指導員・マネージャー養成事業 講師との打ち合わせ 運動指導員・マネージャー募集	実施方法：広報にて募集 (定員：運動指導員 30 名マネージャー10 名) 対 象：松戸市内で高齢者運動をボランティアとして指導・サポートしていくことが可能な方。

	①高齢者運動指導員・マネージャー養成講座事業実施 (第1部「理論学習」)	実施方法: 専門講師による講義 6回 対 象: 上記申し込み者(定員: 40名) 場 所: 中央保健福祉センター
7月 ~ 9月	①高齢者運動指導員養成講座 (第2部「実技実習」)	実施方法: 講師による実技指導 12回 対 象: 第1部講座参加者 40名 場 所: 中央保健福祉センター
	①レベルアップ研修	実施方法: 外部講師及び先輩講師による実技実践指導により、指導者のレベルアップを行なう。 3回 対 象: 第2部講座参加者 40名 場 所: 中央保健福祉センター・市民センター
	②チーム編成	実施方法: 安全に教室運営するために、1教室をインストラクター2名・マネージャー1名の計3名で編成。 対 象: 第2部講座参加者 場 所: 中央保健福祉センター他
	②高齢者運動教室の参加者募集	実施方法: 教室毎に周知用のチラシを作成し、「場」の周辺にポスティングを実施。広報まつどに掲載依頼。(10/1号) 対 象: 市内在住の概ね 65歳以上の高齢者 場 所: 中央保健福祉センター、新規会場
	②新規会場の借用	実施方法: 担当課と共に会場毎の借用予約手続きに町会訪問。 対 象: 新規会場の自治会長・町会長等 場 所: 新規5教室の会場
	前期振り返り会議	実施方法: 半期の事業評価と課題を確認 対 象: 団体と担当課 場 所: 中央保健福祉センター
10月 ~ 12月	③高齢者運動教室実施状況の確認	実施方法: 運動指導員やマネージャーの有志によるプロジェクト推進メンバーが新規教室立ち上がりをチェックリストで点検する。 対 象: 新規5教室
	③少人数教室対策検討会	実施方法: 運動教室参加状況を確認し、参加状況が少ない場合はプロジェクト推進メンバーと担当課とともに対策について検討。 対 象: 新規5教室 場 所: 中央保健福祉センター、ゆうまつど

	③ 運動効果・満足度調査の実施	実施方法:高齢者教室運営を継続的に実施するために、体力測定実施やアンケートによる満足度調査を行なう。 対 象:教室参加者全員 場 所:各教室
1月 ～ 3月	振り返り会議	実施方法:年間の事業評価と課題整理。自立に向けての方向性確認。 対 象:団体と担当課 場 所:中央保健福祉センター
年間 を通じ て	③各部門会議 ・インストラクター会議 月1回 ・マネージャー会議 月1回 ・プロジェクト推進会議 月2回	実施方法:毎月1～2回運動教室指導員やマネージャーが各教室の現状や問題点など共通認識をもって討議し解決策を検討。 対 象:各部門(運動指導員・マネージャー・運動教室活動推進プロジェクト) 場 所:新松戸市民センター・稔台事務所

5. 事業に期待する成果

- ① 高齢者が身近な場所で運動するきっかけが作れるよう、高齢者運動教室「わくわくストレッチクラブ」の開催場所を現在の10か所から15か所に拡大し参加者を増やします。
- ② 会場については、「町会会館」等の身近な所を重点に5教室の開設を目指します。
- ③ 「楽しい健康体操～いつでも・どこでも・だれでも」普及にチャレンジ in まつどの目標に近づくために運動指導員10名 マネージャー5名以上の養成を行います。
- ④ 運動効果・満足度調査の実施し、運動の習慣化・体調の改善・生活意欲の向上を期待します。
(現在も平均70歳以上の方が笑顔で通い、教室満足度85% 継続率75パーセントとなっています。)

6. 協働の意義

- ① 30名以上の人材(高齢者運動指導員やマネージャー希望者)の発掘は協働事業で広報まつど等信頼される媒体の募集で可能となります。
- ② 運動指導者・マネージャーの養成のため、5ヶ月で20回以上の会場確保は協働事業だから可能となります。
- ③ 高齢者運動指導者養成講座の講師要請、テキスト開発等には資金や新たな視点や情報が必要であり、協働事業により得られています。
- ④ 「わくわくストレッチクラブ」の会場は市民センター・町会会館等の確保が必要であり、市との協働事業により、地域の理解や信頼が得られやすくなります。その結果、市民にとってより身近な場所での運動が可能となります。
- ⑤ 上記により、高齢者の健康維持増進が図れるだけでなく、仲間づくり、生きがい、社会参画等が実現できる場となります。

7. 事業実施の役割分担

■ 提案者の役割

- ① 高齢者運動指導員(インストラクター)・マネージャーの養成講座(人材開発)の実施
- ② 同教室の開設準備(保健福祉課との調整、講師との交渉、テキスト・カリキュラムの作成等)
- ③ 開催と推進(受講者との連絡調整、チーム編成、受講者の速やかな養成等)
- ④ 「会場」の調査と交渉取りまとめ、地域との根回し合意形成を協働の力を得て実践
- ⑤ ポスティングチラシ作製・会場周辺チラシ配布による「会場」の周知
- ⑥ 「場」の運営(利用者満足度の向上・安全確保の方策・危機管理の方策・インストラクター・マネージャー会議等で現場のニーズの汲み上げと対策の実施、人材の質向上等)

■ 担当課の役割

- ① 公共性を活かした広報活動(指導者希望者、教室の受講生、一般市民等)
- ② 必要な情報提供・アドバイス
- ③ 指導者養成講座実施会場の確保(5ヶ月で20回を超える)
- ④ 高齢者運動教室指導員育成・運動教室運営に関するアドバイス
- ⑤ 「場」の開設に当り、町内・自治会館等への事業説明・協力の依頼
- ⑥ 資金の提供

8. 将来の展開

松戸市内における高齢者運動教室を、地域による温度差が解消されるよう努め「いつでも、どこでも、誰でも」参加できる地域になるようにします。そして、「心と体の健康づくり拠点」と位置づけ、触れ合いを通じた人間関係の構築を目指します。

- ① 市民のニーズを満たすためには、更なる取り組みが必要です。
(22年開設の5会場60名、23年開設5会場30名を更に増やし、24年度5会場の開設を目指します)
- ② 23年度開設5会場のうち3会場を地域の会場としました、地域の方々にこの事業の有用性を理解してもらえよう活動を進め、地域との協働を目指します。
- ③ 高齢者(概ね65歳以上)対象に特化している健康体操にふさわしいノウハウの開発を進めます。
- ④ 指導員の質の向上への取り組みの推進 教室間交流・合同レベルアップ研修の継続

尚、3年間の協働事業終了後の展望として

- 1、松戸市における更なる高齢化の進展を控え、福祉予算の低減は大きな課題であり、介護予防への取り組みが一層求められます。従って「楽しい健康体操」の「場」の開設の必要性は一層高まります。出来るだけ速やかに「楽しい健康体操～いつでも・どこでも・だれでも」普及にチャレンジ in まつどの環境実現に向けて、「場」の増設を急ぐ必要があります。

近隣の市川市では、既に70か所の開設を行っています(この事業スタート時は50か所の予定)松戸市ではまだ充足に向けて努力が必要です。

この教室は介護予防サービスとしても十分対応できる内容であり介護予防課との協働事業あるいは委託事業

として継続出来ることを期待します。

- 2、協働事業あるいは委託事業として継続できない場合でも、NPO法人人材パワーアップセンターは引き続き取り組みます。

事業の予算計画

【社会資源持ち寄り（収入）】

（単位：円）

提案者	（自己資金）	金 額	積算内訳
			420,000 円
	自己資金合計（a）	420,000 円	
	労力換算額計（b）	592,000 円	労力換算計算書のとおり
市	負担金申請額（c）	500,000 円	
資金合計額（d）（a+c）		920,000 円	事業費（g）と同額

【負担金申請額（c）チェック項目】

1. 対象となる経費（e）欄の90%以内 ✓
2. 1事業あたり50万円以内 ✓
3. 自己資金（a）欄に労力換算額（b）欄を加えた額以下であること。 ✓

【事業費の積算（支出）】

	項 目	金 額	積算内訳
負担金の交付対象経費	①講師謝礼	125,000 円	運動教室指導員養成講座第1部 「理論」 25,000 円 × 5 名
	①講師謝礼	60,000 円	運動教室指導員養成講座第2部 「実技」 5,000 円 × 12 回
	①講師謝礼	10,000 円	マネージャー研修 10,000 円 × 1 名
	①講師謝礼	45,000 円	レベルアップ研修 15,000 円 × 3 回
	②講師謝礼	240,000 円	開設運動教室 2,000 円 × 5 教室 × 24 回
	①講座テキスト原稿依頼	40,000 円	2,000 円 × 20 頁（講師に依頼）
	①講座テキスト作成	21,000 円	300 円 × 70 冊
	②教室使用料	144,000 円	1,200 円 × 5 教室 × 24 回
	②教室使用備品	50,000 円	CDカセット × 5 血圧計 × 5
	③体力測定用具	30,000 円	長座体前屈計
	③ボランティア行事保険料	81,200 円	560 円 × 5 教室 × 24 回 = 67,200 ✓ 28 円 × 50 人 × 10 回 = 14,000 ✓

	③通信費・事務費・雑費	48,800 円	インク・名札ホルダー・通信費 リーフレット印刷
	対象となる経費合計額 (e)	895,000 円	
その他経費	②ポスティング交通費補助	10,000 円	500 円 × 2 回 × 5 教室 × 2 名
	②会場調査交通費一部補助	15,000 円	500 円 × 5 教室 × 6 名
	その他経費合計額 (f)	25,000 円	
事業費 (g) (e + f)		920,000 円	収入合計額 (d) と同額

労力換算計算書

(単位：円)

	項 目	換算額	積算内訳	
労力換算額	活動計画		人数×時間×回数×500円	
	会場候補調査	42,000円	7人×4h×3回×500円	
	テキスト製本作業	14,000円	7人×4h×500円	
	運動指導員養成講座運営	45,000円	3人×5h×6回×500円	
	同実技講習運営	90,000円	3人×5h×12回×500円	
	レベルアップ研修	12,000円	2人×4h×3回×500円	
	会場予約・確保・連絡	13,500円	3人×3h×3回×500円	
	会議資料作成・集計・準備	80,000円	2人×4h×20回×500円	
	プロジェクト推進会議	168,000円	7人×2h×24回×500円	
	教室鍵授受・清掃	60,000円	5人×1h×24回×500円	
	インストラクター会議	37,500円	5人×2.5h×6回×500円	
	マネージャー会議	30,000円	5人×2h×6回×500円	
合計 (b)	592,000円			